

後世に受け継ぐ「日本一の白樺美林」 ～森林資源の保全と活用から広がる地域貢献～

岩手県立久慈翔北高等学校 代表 大道 慶三

みどり戦略との関連性

農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵

1・目的

久慈市山形町平庭高原の白樺美林は、31万本以上のシラカンバ（以下白樺）の木により形成し、岩手県が全国に誇れる森林景観の一つとなっている。しかしその裏側では白樺美林の高齢化問題や管理者の担い手不足が深刻化していることを知り、日本一の白樺美林を守るために新たな取り組みに挑戦した。

2・取組内容

(1) 白樺美林の継続調査と保全活動

3Dレーザースキャナーを使用して白樺の実態調査を行った。環境整備ボランティア団体「くじ☆ラボ」に参加するほか、月一回の環境整備活動を計画した。

(2) 白樺の苗木生産

白樺の苗木を生産するうえで乾燥に弱い課題を克服するため、保水力のある白樺木炭を活用した播種を行った。

(3) 白樺樹液を活用した商品開発

久慈市の特産品で現在利用されずに廃棄されている規格外シイタケと白樺樹液を活用したシイタケ佃煮について、地元企業と連携し商品化を目指した。

3・結果

(1) 調査の結果、白樺美林の52.5%が白樺以外の樹木であることが分かった。

また、環境整備活動を「くじ☆ラボ」や久慈市と連携し実施した。

(2) 白樺木炭を活用した白樺苗木の生産を行い、60本以上の生産に成功した。

(3) 地元企業との連携により、商品化が実現し今年の3月には販売会を実施した。

4・まとめ

今回の活動を通してSDGs 17の目標のうち、11、12、15、17を実行することができました。また、私たち高校生が学んでいる専門的な知識や技術が日本一の白樺美林の保全と活用という課題の解決に貢献できたと実感しました。今後も地域の財産として数百年後も残せるよう、これからも私たちは研究活動に取り組んでいきます。



商品名
「白樺のめぐみしいたけ佃煮」



先進的スマート林業
令和6年11月25日



白樺苗木の移植
令和7年6月6日



盛岡駅での販売会
令和7年3月2日

